

中央学院高等学校での生物部との廃油による蠟燭作り報告

NPO 住み良いまちづくり研究所

浜崎慶子

撮影者：森琢人・林雅人・三五郁美

我孫子市の都部に位置する中央学院高等学校は、谷津の自然を目の当たりにする緑豊かな環境で、生徒さんたちは、礼儀正しく明るいです。

この生物部は、創部以来、「ラン科植物の無菌培養に関する研究」を行っています。



現在では、その研究成果を生かして、小笠原固有種であるアサヒエビネの研究を東京大学大学院理学系研究科附属植物園（小石川植物園）、小笠原野性生物研究会と協力して取り組んでおり、飼育しているアホロートル（ウーパールーパー）やアフリカツメガエル、淡水産プランクトンなどを生きた教材として130校に及ぶ近隣の小・中学校で、生物教材配布も行っております。その積極的な姿勢に感動し、廃油による蠟燭作りプログラムをNPO 住み良いまちづくりで行わせて頂きたいと交渉しました。

当研究所では、環境保全として有効な竹宵の概念を広めるために、それには欠かせない蠟燭を、ゴミ扱いされる廃油や、使用済み瓶を利用したの徹底的エコの立場から多くの人々に知っていただきたいと考え、その第一歩として中央学院高等学校生物部顧問の今井紀博先生にお願い致したわけです。丁度4月29日が生物部の合宿にあたっており、即座に講座を開く幸運に恵まれたのですが、実験道具の揃った部屋は広々としていて、先生方を交えた25名と、私たちスタッフ10名で、和気藹藹のうちに楽しい1時間半を過ごす事ができました。

(制作過程)

みんなで作ろう！リサイクルろうそく！

『中央学院高等学校生物部によるエコ都市我孫子学習』

3R

リデュース(減らす)リユース(繰り返し利用)リサイクル(資源利用)

材料： 廃油・廃油凝固剤・クレヨン（好きな色）・ジャムなどの空き瓶・
アロマオイル・綿棒

①クレヨンは、はさみで細かくきざむ。



②なべを 中火にかけ凝固剤をとかす。



③ 鍋に、クレヨンを入れ掻き混ぜとかす。



④ 好きなアロマオイルを2、3滴入れ
掻き混ぜる



⑤氷水で冷やすと早く固まる



⑥固まった後、綿棒を中央に綿頭の半分程さす。



⑦マイろうそくの出来上がり。



【注意事項】 ロウソク部分から出ている綿棒を出すほどに炎が大きくなります。綿頭が種火として燃え尽きた場合、新しい綿棒(紙軸)に差し替えて下さい。リサイクルロウソクのため煤が出やすいです。ビン縁に炎が寄るとビンが割れる恐れがあります。火傷等、火の取り扱いに気を付けて下さい。(このロウソクは、環境活動を行うNPO住み良いまちづくり研究所が、市の行う資源分別による廃油と白瓶をリサイクルして作っています)

(講座の受講風景)



(さあーこれからスタートだ。
皆頑張っていこう！)



(皆さん 今日のリサイクル蠟燭作り
を楽しんで下さい)



(ドアの入口で生徒さんの動きをじっと
見つめる顧問の今井先生)



(どんなアロマを使用するかも
ポイントの一つ。甘い香りが
するものが、少量でも効き目
がある)



(空き瓶を洗ってラベル剥がしも、
地味だけれど大事な仕事)



(地域のおじさん？おばさん？が
色決めの相談に乗っている場面を
パチリ)



(どんな色になるのか楽しみだ～) (出来上がったろうソクの灯の揺らめき)

合宿の夜が絶好のチャンスと、30本の竹灯籠を使って生物部では、竹宵を行ってくれました。



(リサイクルろうそく作り)に参加して 生物部生徒の感想

3R というと、とても難しいように聞こえます。しかし我孫子の駅蕎麦の弥生軒などからもらった廃油を利用し、アロマを入れる前に唐揚げの匂い等したので、とても身近に思えて、実験が楽しかったですという意見が圧倒的でした。「勉強と身構えなくても物が学べる方法があるという発想転換が出来た事が、逆に勉強になった」という生徒さんもいて、スタッフ一同嬉しかったです。生徒さんが「家でも簡単にできるので、家族皆に教えてあげられ、母親からも感謝されました」という項等、ボランティア冥利につきました。

この講座体験を次にどう生かすか

- ① 6月18日・19日の市民活動フェア in あびこでアビスタの公園口のテントでろうそく作りの指導のお手伝いをして頂きました。手順に慣れており、制服姿で、テキパキと親子連れや、小学生などに指導する姿は実にさわやかでした。「どこの学生さんですか」とスタッフが尋ねられる事も多く、「中高学院高等学校に子どもを受験させようかしら」と言ってくれる親御さんもいて、紹介する側としても鼻が高いでした。
- ② NPO 住み良いまちづくり研究所は、環境省の推進するライトダウンを毎年行っていますが、今年も7月16日に県施設のけやきプラザ前広場で、2011 竹宵 in あびこを行いました。その際竹灯籠にエコ蠟燭を入れたのですが、中央学院高等学校の皆さんが、合宿中にもかかわらず、着火の時に来て下さり、とてもありがたかったです。此処に感謝いたします。

中央学院高等学校教育の素晴らしさについて

学問をするという事は、単なる知識にとどめるのではなく、**個人が自分の天職を全うするための表現力を身につける**事が大事です。これは、大学のみには当てはまるのではなく、あらゆる学びの段階で大事だと思っています。そのため、面白い部活動教育を行っている中央学院高等学校の生物部に着目し、東日本大震災キャンドル募金の中で進めている、廃油による蠟燭作りの講座を4月29日の合宿時に開かせてもらいました。予想通り、彼らの反応は素晴らしく、マスターしてもらった技術を、前述のイベントで活用して頂きました。知識は単なる知識ではなく、社会に出てそれを応用・活用できてこそ、価値があると思うし、それを証明して下さった生物部の先生方や生徒さんたちに深謝致します。

以上